

よい会社をつくろう。よい経営者になろう。よい経営環境をつくろう。

2021
12月号
vol.665

月刊

同友

MONTHLY COMMUNICATION MAGAZINE DOYU



特集 中小企業だからこそできるSDGs達成へ

21世紀型
自立型
企業づくり

75歳以上のばあちゃんたちが働ける会社

大熊 充氏 うきはの宝株式会社

動画も観れます



ポケット月刊同友

中小企業だからこそできる！

SDGs 達成へ

環境経営 委員会の SDGs

新事業はSDGsの視点で

(株)大匠建設 井上 真一 委員長

委員長である(株)大匠建設の井上真一さんは現在CLT建築のパッケージ化と普及活動を行っています。CLTとは板を重ね合わせて強度を高めた直交集成板のことで、地元の間伐材を使うことで森林の保護をすることができ、CO2排出の抑制にもつながっていきます。

施工をパッケージ化することでコストを削減することができるようにもなり、CLTを使うた建築は福岡県内でも少しずつ広がってきています。最近では大手ゼネコンにも施工のアドバースを行っているそうです。

また太陽光発電事業も順調で、今年11か所目の発電所を稼働させました。自社消費分はすべて太陽光発電でまかなえているた

め、再生可能エネルギー使用率100%の経営が実現しました。電気自動車も今年14台目を購入し、ガソリン消費も大幅に減りました。

古民家再生に挑戦

さらに今年から新たに取り組んでいるのは、古民家再生事業です。築100年近くの建物は、普通であれば取り壊しますが、解体の際に多くのCO2が発生します。そんな古民家を自社の職人の力で再生させています。今後は古民家の良さを発信するカフェや事務所としても使えるように現在進めています。全国で課題となっている空き家問題解決にもつながることが期待されています。

古民家再生事業



Writer

環境経営委員会
太田FP事務所 太田 和子(博多支部)

電気自動車



CLT 建築



同友会 三つの目的

よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して、企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

よい経営者になろう

同友会は、中小企業家が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

はみだし レポート

今月の自立型企業づくり



うきはの宝株式会社 代表取締役社長
大熊 充氏 (りょうちく支部)



やわらか製作所株式会社 代表取締役
内野 克彦 (りょうちく支部)

大熊さんとは、約8年前に同友会で知り合いました。「大熊Webデザイン事務所」で当時からお忙しいので、寝る間を惜しんでお仕事をされているようでした。このままではいけないと、同友会や威宜塾(りょうちく支部内の財務勉強会)で学ばれて、見る見るうちに成長されました。

同友会の学びと比例して、お仕事の商圏も広がっていったのではないのでしょうか。県の委員会活動に参加することで、福岡県内にお客様も広がっているようでした。

そうしているうちに、デザインを基礎から学問として学びたいとのこ

とで、専門学校に行くという驚きでした。お仕事はどうするのかと心配していましたが、持ち前のバイタリティーで学生と経営者の二足の草鞋を見事にやり遂げていました。

デザインの専門学校でソーシャルビジネスを学んだことが、現在の「うきはの宝株式会社」に繋がっていて、学びを実践し活用するのが大熊さんの人として経営者として尊敬する部分です。

当社でもホームページや販売サイト、名刺、封筒等と、デザイン関係は何でも相談しています。これからも頼れる仲間として、地域をけん引して欲しいと思っています。

今月の表紙



うきはの宝株式会社 代表取締役社長 大熊 充さん (りょうちく支部)

撮影・文／株式会社ココスイメージ 富谷 正弘(玄海支部)

「うきはの宝」大熊さんを撮影させていただきました。うきはのばあちゃんの「知財」を若い世代に伝承するために、「仕組み化」をめざすことをミッションとする大熊さんです。良い写真が撮れました。4年間の入院時に認知症のばあちゃんに救われた恩返しだと知りました。頑張れ!! 大熊くん。「じいちゃんカメラマン」が活躍する場もお願いします。



今月にはいそのさわの敷地内にある主屋に移転予定です

社員一人一人が お客様に伝えられる会社へ

副委員長である(株)アズマの中島一嘉さんは数年前からSDGsの考え方を経営に積極的に取り入れています。最近の取り組みは「社員へのSDGs教育」です。

これからの未来を背負う若い社員に当事者意識を持ってもらうため、既存の社員に半年間SDGsのスクールで学ばせ、新入社員研修でもSDGsの視点を取り入れています。そして、「なぜアズマはこの事業をやっているのか」をしっかりと理解してもらい、自分たちがこれからやっていく事業が社会に役立つことだという認識を持ってもらうようにしています。

大卒のSDGsだけ話してもきれいごとで終わってしまうこ

とが多いのですが、SDGsを理解したうえで未来の当事者として自分の思いをお客様に発信することはとても大事なことです。対応にあたる社員一人一人が自ら考え、伝えることができるようになることで、それを受け取るお客様の対応も変わってきたといえます。

アズマでは太陽光発電のLED'S(レッズ)を推進しています。スタート時は条件に合う事業所を対象に始めましたが、一般家庭も可能になり、最近では再生可能エネルギーの導入を意識している企業に、脱炭素実現に向けての導入サポートもあわせて行っています。

やろうと思っても、「どこから始めていいかわからない」「コ

ストがかかるのでは？」と二の足を踏む企業経営者は多いかと思いますが、いかに費用を掛けずに有効的な導入ができるかの計画立案等のアドバイスをされています。

まずはやると決意すること

近年、気候変動は私たちが体感できるレベルまでに危機感を増してきました。2030年のゴールを達成するために、まずはやると決意すること、そして表明し実行することが大事です。実践のヒントは同友会での学びの中にあります。中小企業だからこそできるSDGs達成への取り組みを加速させていきましょう。

LED'S(レッズ)

「LED'S(レッズ):Local Energy Direct System」と名付けたシステムで、「地域の再生可能エネルギーを地域の企業などの力だけで創り出し、地域内で直接利用すること」を目的としたプロジェクト。



Writer

環境経営委員会
太田FP事務所 太田 和子(博多支部)

学びを通して 近未来の自社を描く

女性部委員会では、女性経営

者、あるいは女性とともに働く経営者の皆さんとともに活動が続けてきました。多様性を体现する女性、実は大いなるマイノリティーでもあります。そんな経験を積み重ねてきた女性にかかわる企業にとって、今の同質的な社会を変えたい、という思いは切実なものがあります。今話題のSDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)はそんな世の中を変える有効なツールではないでしょうか。

そんな思いから、今年は7月より、中原亜希子委員長のもと、『SDGsのビジネス事例から自社事業の視点を変える』というシリーズ勉強会(全5回)を開

催し日々学びを深めています。

SDGsは、とすれば「数居が高そう」と思いがちです。しかし実は、10年後にどのような社会を次の世代に引き継ぎたいかという、近未来のテーマであり、まさに経営者の「自分ごと」に他なりません。

本勉強会は、「新規事業×SDGsの4ステップ」を軸に組み立てられています。

①「SDGsの本質を理解する」(第1回7月7日)では、SDGs公認ファシリテーターを招いて「2030・SDGsカードゲーム」をしました。これは、経済、環境、社会の3つの世界状況メーターをカードを手に、参加者が互いに交渉・意見交換を行うものです。自己利益のみ

の追求(他者利益への配慮)によりみるみる地球が悪化(改善)していく状況を目の当たりにし、このままではいけない!と切実に感じました。

②「新規事業のミッションの定義」(第2回8月24日、第3回9月28日)では、具体的SDGsビジネス事例を参考に自社事業の視点を変え、新規事業を考えていきました。連続勉強会を続ける中で、参加者自身、自社へフィードバックして新規事業のアイデアを構築し、成長していく様子を参加者皆で共有できたのは目覚ましい成果でした。

③「SDGsへの貢献」・

④「経営理念、ミッションとの統合」(第4回10月26日、第5回11月30日)では、いよいよSDGs

ビジネスプランと

ビジョン・中長期計

画との融合戦略を考

えます。原稿執筆時点

ではまだ未了ですが最終

回の自社プラン発表会は、菓子店、和服業、ゴム製造業、印刷業、リフォーム業等、多岐にわたる参加企業の約5ヶ月間にわたるSDGs思考が経営実装へと羽ばたく場となりそうです。

ゴール5は女性がテーマ。女性が変われば地球が変わるのでは?…そんな思いから取り組み始めた私でしたが、17のゴールすべてにかかわっていきたいという思いにさせられました。皆さんもSDGsで近未来の自社と地球の姿を描いてみませんか。

Writer

女性部委員会
野中・西村法律事務所 世良 洋子(東支部)



仕事そのものの意味合いが変わった

女性部委員会でのSDGs勉強会に参加し、本山晴子先生

(※)が1回目の講義の中で話された、同じ仕事でもSDGsの視点を取り入れた場合、仕事そのものの意味合いが変わり、働いている人のモチベーションが変わるという内容に大変共感しました。

講義内容を、毎回社内スタッフと共有し話し合うことで徐々に社内の考え方が変わってきました。

社内でも何かできることはないかと各部門のスタッフにSDGsの説明や視点を変える話をしたところ、私たちの仕事そのものがSDGsの12番『つくる責任つかう責任』ではないかと

いう意見が出されました。

それは、着物は長く着ることができて、寸法を直すことで子供や孫も着ることができからです。直営店では工房で製造した着物や帯の販売をしますが、お直しの業務も多く行っており、祖母が着ていた着物を孫が着るということも目にします。

また、以前から着物を作る際に残った経糸を緯糸に使用した商品があるので、うちはもともSDGs商品を作っていたんですねと目を輝かすスタッフもいました。職人さんの中には残り物のくず糸を使うなんて恥ずかしいという考えの人もいましたが、廃棄をしないのでむしろプラスなんだという考え方の

変化がおきていました。

さらに、1つずつ色が合うように確認して織り上げ、本数も少ない付加価値がある商品だということに気が付き、きちんとPRして打ち出すべきではないかという話も出ました。

これからも講義の内容を社内と共有して、SDGsの取り組みとPRを積極的に行なっていきたいと思っています。



本山 晴子氏

有限会社コ・リード 代表取締役
九州工業大学情報工学部卒業後、インターネットプロバイダー、WEB 製作会社を経て、独立。世界でも屈指のコーチ養成機関である CTI にてコーチングを学び、プロコーチ資格を取得。体感型研修に定評がある。中小企業診断士などの専門家とチームを組み、創業支援や経営革新支援にも取り組んでいる。経営者から答えを引き出すコーチングを活かしたコンサルティングが特徴。2019年より、SDGsコンサルティングにも力を注いでいる。

Writer

株式会社岡野 山本 裕子(福友支部)



21世紀型自立型企業づくり

75歳以上の ばあちゃんたちが 働ける会社

商業デザインから地域デザインへのシフト

うきはの宝株式会社 代表取締役社長

大熊 充 氏

みつる

りょうちく支部

地域貢献のために若者の雇用創生に取り組むも、なかなか成果が得られず。地域で多くの聞き取り調査の結果、始めた事業とは……。

自暴自棄に陥る

今回の取材は、マスコミでも注目を浴びるうきはの宝(株)の大熊充さんです。まずその波乱万丈の生い立ちからお聞きしました。

大熊さんは昭和55(1980)年7月、うきは市に生まれました。渋谷、高校に進みますが1ヶ月とも経たずドロップアウト(退学)します。

そこからはバイト人生を歩みます。バイク好きが高じて、バイク屋になりたいと思っていました。必要な資格を取得するために仙台の専門学校に進みます。そんな折、バイクで自損事故を起こしてしまいました。一命は取り留めたものの、車いす生活を余儀なくされます。医者からは「バイク屋はあきらめろ」と宣告されます。3ヶ月も経つと誰もお見舞いに

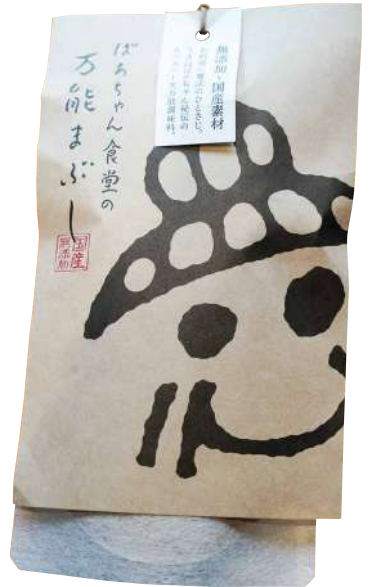
来なくなりました。夢も破れ、自損事故であるために誰かにあたることもできず、20代半ばの大熊さんは心折れてしまいました。

おばあちゃんたちとの 出会い

入院生活では、夜のナースステーションに不安定な状況の方々が集められ、大熊さんは高齢のおばあちゃんたちに囲まれていました。

「兄ちゃん、どんな事故したの?」「あんな何の仕事してるの?」「こんな間いかけにも心閉ざしていました。」

「おばあちゃんたちにとっては、若い人が入ってきて珍しくてイジってみたいかったんでしょうね。始めは何も答えませんでした。あんなはまだ若い、まだ



大ヒットの『万能まぶし』

ですが、全然売れません。その理由を考えてみました。それはデザインであり、見せ方であり、伝え方だという結論に達しました。そこで自己流ながらも工夫していききました。そのおかげで順調にネット販売が伸びてきました。

やり直しがきくよと言いたかったのかも
しれせんね」
やがて少しずつコミュニケーションを図るようになりました。おばあちゃんたちの明るさに助けられ、体も心も回復していくのでした。入院生活は約4年にわたりました。

仕事を探す

28歳になった大熊さんは仕事を探します。時はリーマンショックを迎えており、面接で20社以上に断られてしまいました。「社会が私を必要としない」ともたも挫折を味わいます。しかし、ここで発想の転換をします。「だったら必要とされる人間になろう!」と。

うきはに戻り、自分の得意なことを考えてみました。バイク屋に勤めていた時に修得した钣金加工技術で金属製品を作り、当時流行り始めていたネット通販を始めました。モノには自信があったの

地域貢献

誰のために何をするか

知り合いから同友会に誘われ入会します。同友会の地域に貢献するという考え方に共感していました。具体的には、若者の雇用創生となりますが、採用しては辞めていくという繰り返しで、一向に成果が出ないことに悩んでいました。

またデザインについても、我流で押し通していたので、改めて基礎から学んでいこうと決心しました。2018年に博多にある日本デザイン学院・ソーシャルデザイン科に入ります。

「得意な分野を活かし付加価値のある仕事がしたい」『ばあちゃん食堂』はそんな生きがいを追求していく場です

いきました。スタッフは75歳以上のおばあちゃんたちで、シフトを組んでいます。ちなみに75歳未満は「ばあちゃんジュニア」と呼ばれています。

料理は出汁からとって野菜をふんだんに使った月替わりメニューです。「世の中におばあちゃんっ子は多いと思います。訪れるお客様は『懐かしいおばあちゃんの味』と共感してくれます。多少高めの価格設定ですが、これが働くおばあちゃん豊かな生活につながっているという満足感もあるようです」。また通販専用

理念追求型企業

『ばあちゃん食堂』はよくボランティアやNPO活動と思われませんが、自己資金で運営しています。しかし、単なる利益追求ではなく『理念追求』です。全国から問い合わせがある中で、惜しみなくその

の『万能まぶし』は大ヒットし、現在制作待ちの状態です。
「モノじゃなく、コトに共感してもらっています」と大熊さんは目を細めます。



ばあちゃん食堂の加工品の数々

学校のイベントで木藤亮太氏(日南市あふろ) 油津商店街を再生させ地域活性化請負人と呼ばれる)の言葉に感銘を受けました。「地域を活性化させるためには、誰かが『旗振り』しなければなりません。その人は決して優秀でなくていい。しかし、情熱がなければならぬ。そしてその旗振りには君だ」と大熊さんが指名されたのでした。さらにソーシャルデザイン科の先崎哲進先生に勧められた『株式会社ボーダレス・ジャパン』が主催するボーダレスアカデミーという社会起業家育成の学校に通い、「誰のために何をするか」を明確にすることを教えられます。大熊さんは20代にバイク事故を起こして入院した時にそこで勇気づけてくれたおばあちゃんたちの顔が浮かびました。

そこで地元の高齢者に直接会って聞き取り調査を始めました。8ヶ月にわたり3000人を超える人に会いました。

「どんなこと、何に困っているのかを聞き取りました。そこで分かったことは、働きたいという高齢者は少なからずいる。年金だけでは生活費が足りない。しかし、内職のような単純作業ではなく自分の得意な分野・特性を活かし付加価値のある仕事をしたい。働く仲間



ばあちゃんたちの製造の様子

やお客さんと接したい、ということでした。こうして集めたエビデンスは確固たる確信へと変わっていききました。おばあちゃんには知恵と経験があります。それを継承していくことも大事なことです。おばあちゃんの知財を結集させて地域を活性化させていく、まさに商業デザインから地域デザインへのシフトでした。

『ばあちゃん食堂』開店!

2019年10月、『ばあちゃん食堂』を開店させました。同友会に倣い、理念を掲げました。

『75歳以上のおばあちゃんたちに生きがいと収入を作る』

食堂は評判を呼び順調に実績を上げて

ノウハウを伝えます。
働き方という面では厚生労働省が、SDGsという切り口では環境省が、農業活性化では農林水産省から問い合わせが来ており、その取り組みがマスコミで紹介されています。

「私は全国の町に一つは『75歳以上』が働ける会社があつていいと思いますし、この2年足らずで全国に広がりました。要は『伝え方』次第だと思っています」

課題もあります。現在での雇用保険に加入するには週に20時間以上働かなければならないという条件があり、おばあちゃんにとっては足かせとなっています。「これらは私たちがムーブメントを興して時代に合った制度にしなければならぬと考えています」

老舗酒造会社の(株)いそのさわが、このたび複合施設に様変わりするのにあたり、本社機能を移していく計画だということです。

多世代型協働

取材の最後に、大熊さんの考える自立型企業について伺いました。「働く人の得意技・特性を活かして付加価値の高い製品・サービスを提供する会社。そのためにはプロデュースできるスタッフとのそれぞれの関わり合いが大切だと思

います。その思いを伝えることで共感が生まれてくると思います。うちの場合、おばあちゃんだけがいて成立する事業ではありません。私どものようなプロデュースするスタッフがいない必要ありません。まさに多世代型協働といえます」と締め切っていました。

取材協力ありがとうございました。

※このたび、うきはの宝(株)は「第20回福岡県男女共同参画表彰(社会における女性の活躍推進部門)」を受賞しました。



うきはの宝株式会社

創業 2019年10月
住所 うきは市浮羽町浮羽756
電話 0943-76-9688
従業員数 17名(うちパート・アルバイト・契約14名)
URL <https://ukihanotakara.com>
事業概要 「ばあちゃん食堂」を運営。うきは市の農村で75歳以上のおばあちゃんたちが働くことで「生きがい」と「収入を得られる」会社がうきはの宝(株)です。

IT部会 社員例会

IT部会社員例会企画リーダー
株式会社スミリオン 中原 慶

2021年10月27日(水)、東邦オフィス天神渡辺通貸会議室にて令和3年度10月社員例会を開催いたしました。このイベントは、福岡同友会のIT部会に参加している企業の社員を中心に、例会作りを通して、様々な企業の社員同士で交流を図ることを目的としたものです。

今年で3回目の開催となった社員例会では、『ソウゾウカ × コミュニケーション力』をテーマに掲げました。アイスブレイクとして「ワードウルフ」、参加者のコミュニケーションを図るメインとして「ウミガメのスープ」という思考ゲームを実施しました。

昨年に続きコロナ対応として、会場参加とZoom参加のハイブリッドでの開催です。

事前準備

企画・運営のメンバーとの初顔合わせは7月7日でした。今年度の企画・運営のメンバーは計6社で14名の参加です。そのうち、昨年度からの参加は2名だけで、ほとんどの参加者が初参加でした。最初の打ち合わせは、経営者を含めての顔合わせだったこともあり、私たちはとても緊張しました。私自身も社員例会初参加ではありませんが、経験豊富な先輩方からのサポートもあり、今年度の企画・運営のチームリーダーに手を挙げました。

リーダーを務める上での課題は、どういう流れで準備を進めていくかでした。私自身、イベントのリーダーという立場は初めてで、人前に立つことも苦手でした。そのため、何から手を付けて良いかわからないという状態になってしまい、早速、人の上に立つことの難しさを痛感することとなりました。そんな中、場を仕切ることに慣れている先輩社員から、周りの人に「どうしますか?」と聞くよりも、リーダーの立場から「こうします」と言うこと。作業は自分では抱えすぎないように、どんどん人に振ること。この2つを頭に置いて進めてみて、とアドバイスをいただきました。この2つのアドバイスを受けて、まず社員例会では何をやるかを、コミュニケーションツールを活用しながら、アンケートで募集し、集まっ



直前の機器のセッティングチーム

た企画の中から、最終的にアンケートで決定しました。

さらに、準備期間中に必要な担当と、本番中に必要な担当をあらかじめピックアップしておき、自分がどの担当をやりたいか決めてもらうなど、担当をどんどん割り当てました。そして、備品や会場、説明用の資料の作成等の準備も進み始めました。

リハール

社員例会での企画内容と担当も決まり、いざ本番へ、というにはまだまだ不安があるのですが、リハールを行うことにしました。リハールは9月に1回、10月の本番前に1回の計2回、IT部会メンバー企業の会

議室を借りて実施しました。

1回目は全体の流れを全員で確認しつつ、問題個所の解決を優先しました。個々人がイベント中に何を担当するか、ゲームの進行上の改善点など、必要なものや対応は何かを、しっかりと確認することができました。

2回目のリハールでは、当日の準備を開始するところから、全員で何をするのかを確認し、実際に私たちがゲームを体験してみるなど、本番通りに進めるようにしました。

リハールを2回行ったことで、進行上必要な資料や、初回のリハールでは想定できていなかったトラブルなどが見えてきたため、リハールは1ヶ月前と本番直前で行うことが効果的だと学びました。

いざ本番

本番を通して感じたことは、リハールは実際の会場で行うべきだったということと、リーダーは全体を把握して誰に何の作業を頼むのかを瞬時に判断することが大切だということでした。会場からスピーカーやマイク等の機材を借りましたが、本番当日に初めて使用したため、Wi-Fiが途中で切れてしまったり、スピーカーがマイクと接続できない、などのトラブルが起きてしまいました。事前に会場の機材を借りて確認せず、ぶっつけ本番になってしまったことを反省し、事前の現場環境調査の重要性を感じました。

当日は様々なトラブルが発生しました。しかし、機材トラブルを担当の人だけに任せるのではなく、機材に詳しいメンバーに手伝ってもらうよう依頼したり、Wi-FiのトラブルでZoomの接続が切れてしまったため、Zoom参加の方は急遽進行を変更し、会場とは別で進めるようにしたり、という対応をすぐに行いました。臨機応変な対応ができたのも、先輩社員からのアドバイスである、リーダーから「こうします」と言うことができていたからだと思っています。

社員例会の企画・運営での学び

企画・運営を通して学んだことは、先輩社員のアドバイスにもあった通り、リー



社員と同友会会員混成のグループワーク

ダーから「こうします」と言うことと、うまく判断できない時はメンバーに「こうしたいのですが、何か良い案はありませんか?」と素直に聞くということを学びました。

最初はリーダーの立場として、全て進めなければならぬという責任を感じてしまいがちでしたが、運営のメンバーからの質問や確認作業を全て一人で引き受けようとしていました。ですが、分からないことに対して手探りで決めるよりも、他の人の意見も聞く、もしくは作業を任せることが大切だと考えを改めました。

最後に

例会の企画から運営に関わった社員の皆様、本当にお疲れ様でした。



社員例会を無事に開催することができたのは、私たち企画・運営メンバーだけの力ではなく、サポートしていただいた経営者の皆様、社員例会に参加していただいた皆様のおかげだと思います。今後は社員例会を担当した経験を活かし、個人としても「この作業をやります」というような主体性を持って行動していきます。

11月の中旬頃に「反省会、お疲れ様会」を行い、今後の社員交流についても話し合いができればと考えています。そして、社員例会というイベントを今後も継続して開催していけたらと思います。



Zoom参加者のサポートチーム

順位発表です!

「景況感は改善傾向も企業間、業種間に温度差あり。経営環境の変化に対応した新しい取り組みと内部強化を急ごう！」

調 査 要 領	調 査 時	2021年9月1日～2021年9月29日		
	対 象 企 業	(一社)福岡県中小企業家同友会 全会員企業2,132社 (8月時点)		
回答企業の概要	調査の方法	会員専用サイト(一部FAX)にて配信、自計記入		
	回 答 数	249社の回答 (回答率11.7%) (製造業39社、建設業42社、商業流通業40社、サービス業128社)		
	企 業 規 模	0～10名以下 ……………125社	11名～20名以下 ……48社	21名～50名以下 ……46社
	(従業員数)	51名～100名以下 ……16社	100名以上 ……………14社	
	企業の所在地	福岡地区 155社	北九州地区 27社	筑豊地区 36社 県南地区 23社 県外 8社

概 況 2021年7月～9月期の状況では売上高DI・利益DI・新規受注DIが、前回V字回復的改善の反動から全て悪化となりました。景況感DIは▲22.5とマイナス域が続いていますが次期予想DIは3期連続改善プラス域を推移しています。

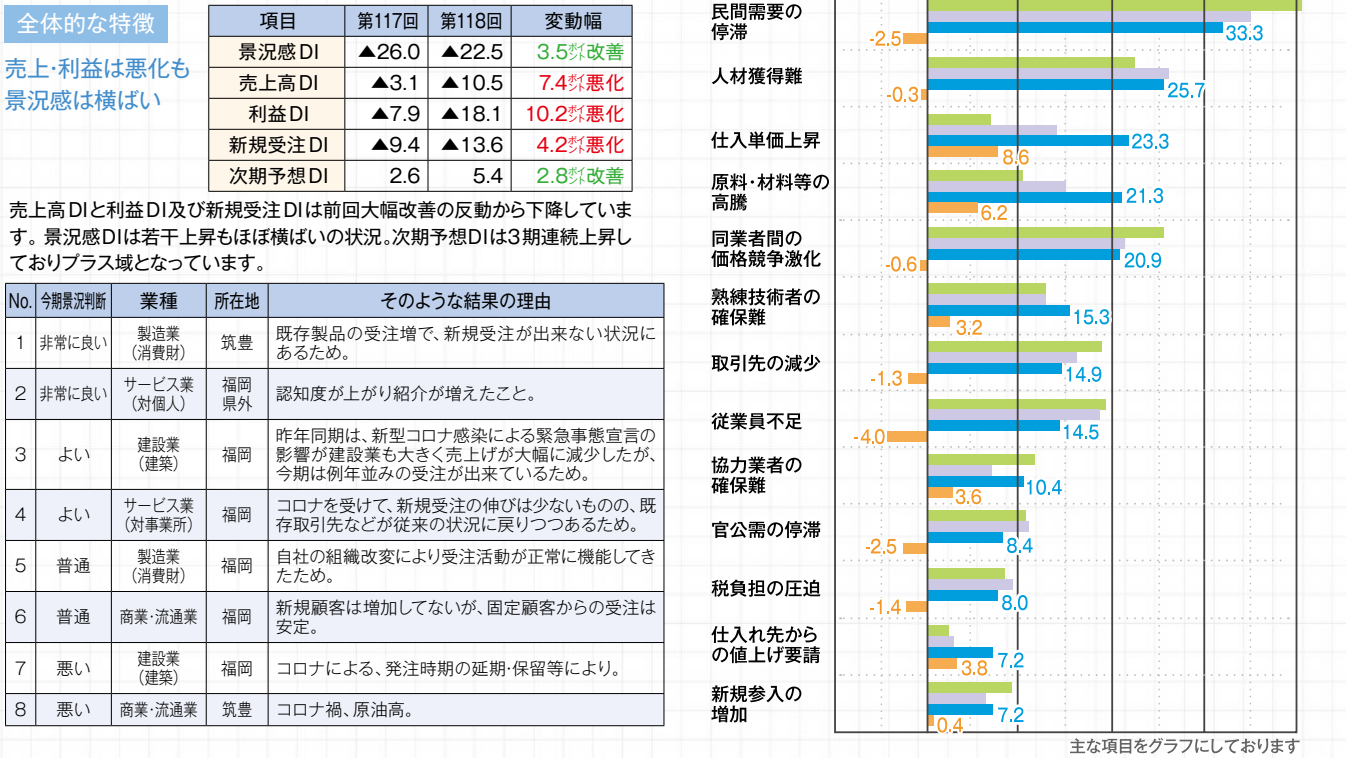
業種別の動向では、建設業、商業流通業において悪化したDI値が散見されました。一方建設業(土木・設備)の新規受注DIで好転があったほか、全体的な次期予想はプラス域となっています。

経営上の問題点は、「民間需要の停滞」が7期連続で最も多い問題として挙げられていますが減少傾向にあります。引き続き“ウッドショック”の影響からか「原料・材料等の高騰」や「仕入れ単価上昇」が上昇しました。「人材獲得難」は2番目に多い問題として挙がっています。

特設項目では“資金繰り”“インボイス制度”“最低賃金引き上げ”“コロナ禍等対策の新たな取り組み”について調査しました。“資金繰り”に関しては二桁プラス域ではありますが前回から比較すると▲5.3と減少傾向となっています。インボイス制度については、回答者の約半数が「知らない」と回答し、「対象事業者かどうか分からない」という回答が回答者の4割程度を占めました。「最低賃金引き上げ」については0～5名の小規模事業者の20%が「知らない」と回答しました。

経営指針書に関する設問では、「作成し実践している」と回答した企業の割合は前回調査よりも減少し、「作成に至っていない」と回答した企業は微増しました。経営指針書と景況感のクロス分析では「作成し実践している」と回答した企業の景況感は平均よりも高い値を推移しており「作成に至っていない」と回答した企業は低い値となっています。

景況感としては改善傾向にありますが、コロナ禍で環境悪化に対して、慣れからの縮小再生産的な動きも見られる状況です。今後の予想が難しい状況ですが、しっかりと事業計画を立てて経営を行っていくことが必要となります。



主な項目をグラフにしております

業種別の経営上の問題点

経営上の問題点を業種別に見ると、「原材料の高騰」については製造業・建設業及び商業流通業で挙げられており、ウッドショックを含む原料価格高騰の影響が各業種に広がっている状況にあります。土木では受注DIが好転している影響か、前回よりも「人材獲得難」の割合が大きくなっています。

・各業種別回答数に対するパーセント ・色付きセルは上位5項目									
%	全体	製造業 (生産財)	製造業 (消費財)	建設業 (建築)	建設業 (土木)	建設業 (設備)	商業・ 流通業	サービス業 (対事業所)	サービス業 (対個人)
回答件数	249	21	18	20	6	16	40	72	56
民間需要の停滞	33.3	33.3	55.6	20.0	33.3	25.0	32.5	40.3	25.0
人材獲得難	25.7	47.6	16.7	15.0	50.0	25.0	25.0	29.2	17.9
仕入れ単価の上昇	23.3	23.8	44.4	25.0	0.0	31.3	50.0	6.9	17.9
原料・材料等の高騰	21.3	47.6	38.9	30.0	33.3	25.0	30.0	5.6	14.3
同業者間の価格競争激化	20.9	28.6	22.2	40.0	0.0	12.5	37.5	19.4	5.4
熟練技術者の確保難	15.3	28.6	11.1	25.0	50.0	43.8	2.5	11.1	10.7
取引先の減少	14.9	23.8	5.6	5.0	0.0	6.3	22.5	15.3	16.1
従業員不足	14.5	9.5	11.1	10.0	16.7	12.5	12.5	15.3	19.6
協力業者の確保難	10.4	0.0	5.6	45.0	16.7	37.5	2.5	11.1	0.0
官公需の停滞	8.4	4.8	16.7	5.0	50.0	6.3	2.5	12.5	3.6
税負担の圧迫	8.0	4.8	5.6	0.0	0.0	6.3	5.0	9.7	14.3
仕入れ先からの値上げ要請	7.2	9.5	11.1	20.0	0.0	12.5	12.5	0.0	5.4
新規参入の増加	7.2	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	5.0	12.5	10.7
大企業進出による競争激化	5.2	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	10.0	6.9	5.4
事業資金の借り入れ難	4.8	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	5.0	5.6	8.9
販売先からの値下げ要請	4.0	4.8	11.1	5.0	0.0	0.0	0.0	6.9	1.8
輸入品による圧迫	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	4.2	0.0
金利負担の増加	1.2	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	2.5	1.4	0.0
その他	9.6	4.8	5.6	10.0	16.7	12.5	7.5	8.3	14.3

資金繰りについて			
資金繰り			
カテゴリ	第117回	第118回	増減
余裕あり	54	50	-0.1
やや余裕あり	47	41	-1.2
普通	108	94	-2.7
やや窮屈	40	47	4.0
窮屈	14	13	0.0
不明	2	4	0.0
サンプル数	265	249	-18

資金繰りは前回に続き二桁プラス域となっていますが、前回から比較すると減退傾向となっています。「やや窮屈」「窮屈」と回答した企業はおよそ25%となっています。

コロナ禍等対策の新たな取り組みについて		
コロナ禍など対策での新たな取り組みについて		
カテゴリ	件数	全体 (%)
行っている	84	33.7
具体的計画がある	37	14.9
行っていない	126	50.6
不明	2	0.8
サンプル数	249	100

コロナ禍での新たな取り組みに対して「行っている」または、「具体的計画がある」と回答した企業と「行っていない」と回答した企業は半々という結果になりました。業種別では製造業・建設業、従業員数でみると0～5名・51～100名の企業は新たな取り組みを行っていない割合が大きくなっています。取り組み内容としては、テレワークの推進やDX・IT導入、ECサイト作成等の取り組みが多く見られました。また、新規事業・新分野への取り組み、事業再構築など、自社サービスの見直しに関する回答も多く挙げられました。

最低賃金引き上げについて		
最低賃金引き上げについて		
カテゴリ	件数	全体
知っている	207	83.1
知らない	37	14.9
不明	5	2
サンプル数	249	100

最低賃金の引き上げについては、ほとんどの企業で認知されている状況ですが、「知らない」と回答した企業は約15%という結果となりました。

インボイス制度について		
インボイス制度について		
カテゴリ	件数	全体
知っている	121	48.6
知らない	122	49
不明	6	2.4
サンプル数	249	100

インボイス制度対象事業者		
インボイス制度対象事業者		
カテゴリ	件数	全体
対象事業者であり対策を考えている	43	17.3
対象事業者であるが対策は考えていない	38	15.3
対象事業者ではない	60	24.1
対象事業者かどうか分からない	98	39.4
不明	10	4
サンプル数	249	100

約半数がインボイス制度を「知らない」と回答し、さらに「対象事業者かどうか分からない」という回答が4割程度という結果となりました。対象事業者でも「知らない」回答が多いという問題が浮き彫りになりました。

経営指針の作成と実践				
経営指針書の作成と実践				
カテゴリ	第117回	第118回	増減	
作成し実践している	95	79	-4.6	毎月検証している 36 14.5
作成しているが実践なし	57	59	2	毎月ではないが検証している 25 10
作成に至っていない	92	97	3.9	年に1回は検証している 14 5.6
作成する必要はない	15	11	-1.3	全く検証していない 2 0.8
不明	6	3		不明 172 69.1
サンプル数	265	249	-13	サンプル数 249 100

経営指針書の作成と実践状況を見ると、「作成し実践している」と回答した企業の割合は減少しており、「作成に至っていない」と回答した企業の割合は微増しています。経営指針書の検証状況では、「作成し実践している」と回答した企業の景況感は停滞していますが、他と比較すると依然高いDI値を示しています。「作成しているが実践できていない」と回答した企業は前回悪化した分、今回は改善が見られます。コロナの状況や世界情勢の変化など、移ろいゆく時代の中で、自社を見直し変化に対応していくことが重要になります。

部長談話
資金繰りの悪化が見られてきたので
早めの金融対策を!

12月の

行事案内

3金 18:30～20:30 筑紫支部 12月例会

頑張ろう筑紫支部

■吉丁 筑紫野市二日市中央1-8-38

コロナ禍における対策で成功したこと、失敗したこと、そこから見えたこと。収束後に検討していることその他諸々、飲みながらアナログな懇親をしましょう。※新型コロナウイルス感染症の感染状況により、中止または延期になる可能性があります。

4土 15:30～17:30 中央支部 12月例会

レクリエーション例会

■福岡市総合体育館 福岡市東区香椎照葉6-1-1 ☎092-410-0314

4土 18:30～20:30 かすや支部 12月例会

望年例会

■竹乃屋 吉塚店 福岡市博多区吉塚本町13-30 ☎092-645-2800

12月例会は一年納めの望年例会です。この一年はほぼZoom例会でなかなか実際にお会いすることができませんでした。一人でも多くの方に参加していただき、親睦を深めたいと思います。ふるってご参加ください。

あすなろ塾 筑豊地区

12月4日(土) 9:30～17:30

■飯塚研究開発センター 飯塚市川津680-41 ☎0948-21-1150

『あすなろ塾』は同友会における経営指針の基礎知識を学習する1日セミナーです。当日は、経営指針の全体像を理解し、経営理念の作成を目標に参加していただきます。

4土 19:00～21:00 飯塚支部 12月望年会

■韓国苑 嘉麻市岩崎1231-5 ☎0948-42-3619

11土 18:30～20:30 のおがた支部 12月例会

コロナ禍での企業作り ～コロナに負けるな～

■ギャラリーレストランBuono 直方市古町10-20 ☎0949-23-1999

<一部>会員の企業紹介や新規事業の紹介

<二部>望年会

15水 18:30～21:00 東支部 12月望年例会

ひがし歴史探訪

■カノビアノ福岡 福岡市中央区大名1-1-12 ☎092-724-4122

過去の映像や写真を見ながら東支部の歴史をみんなで学びます。さらに後半はこの眞鍋支部長体制の1年半の活動を映像で振り返り、残り3ヶ月の士気を高め、また次の支部体制へと繋げたいと思います。

15水 18:30～21:00 福友支部 12月望年例会

望年会～福友を忘れない

■WEB会議システム「Zoom」(ZoomミーティングID等は別途連絡)

+WITH THE STYLE FUKUOKA

福岡市博多区博多駅南1-9-18 ☎092-433-3941

16木 18:30～20:30 西支部 12月例会

人を生かす経営

■天神ビル11号会議室 福岡市中央区天神2-12-1 ☎0120-323-920

■小山 徹志 氏 株式会社小山千緑園 代表取締役 西支部

「緑を創る」企業、(株)小山千緑園は多くの経験、実績を積み重ねており、それは企業ベースでの成長、共育があってこそその成果です。経営理念「根のチカラ」、緑を創る企業としての志や緑を通しての社会貢献などこれまでの経営報告と、社員さんとの学び、企業としての意識の共有など現在に至るまでの人を生かす経営への取り組みをお話いただきます。

16木 18:00～20:30 福博支部 12月交流会

■炉ばたー〜ichi〜 福岡市中央区大名1-8-34 地下1階

☎092-713-2070

16木 18:30～20:30 田川支部 12月望年会

■たぬき庵 直方市下境464-1 ☎0949-25-1255

16木 18:30～21:00 ひびき支部 12月例会

今、その時! ひびき合う実践と連帯!

～100名支部を目指して～

■アクティブリゾート福岡八幡 八幡の間

北九州市八幡東区枝光1-1-1 ☎093-662-1020

みなさまの懇親・情報交換の場として恒例のひびき大表彰例会を企画しました。今回も会員表彰とブロック対抗イベントを開催します。

16木 18:30～21:00 りょうちく支部 12月例会

SDGsを通した両利きの経営

■WEB会議システム「Zoom」(ZoomミーティングID等は別途連絡)

+原鶴温泉泰泉閣 朝倉市杷木志波20 ☎0946-62-1140

■大坪 尚宏 氏 大坪GSI株式会社 代表取締役 有明支部

昨今注目されているSDGsを自社の目標に掲げ取り組まれている事業内容を聞き、持続可能な循環型社会についての知識を深めます。地域の困りごとを解決し、地域に必要とされる会社になるためには、どんな取り組みをどんな考え方でされているのかを報告頂きます。

17金 18:30～21:00 久留米支部 12月例会

忘年例会

■アンジェラフォンティヌ 久留米市御井朝妻1-5-1

経営幹部研修

年輪経営のやり方を学んで実践できる! 12月17日(金) 18:00～20:30

■振興センター301会議室 福岡市博多区吉塚本町9-15 振興センター

問題提起 森 茂博 氏 和親工業株式会社 会長 筑紫支部

講師 吉浦 茂弘 氏 株式会社ティーディーエス 代表取締役 東支部

本プログラムで自社分析を行うことで、経営者が自社の課題の大本をつかみ、問題意識を持つ助けになり、経年変化を経営者自身がつかむことで、これまでの企業活動を客観的に振り返り、今後の展開に生かすことができます。また、社員も同様に、本診断をもとに自社分析を行い、経営者の診断結果との相違を明らかにすることで、経営課題がさらに明確になります。

20月 18:30～21:00 有明支部 12月例会

1年を振り返って

■福喜別館 大川市大字三丸1755-2 ☎0944-89-6080

12月例会は、支部会員みんなで、この1年を振り返っていただき、来年に向けての抱負を語り合い、支部会員の親交を深めます。みんなで語り合った後は、優雅に忘年会を開催し、2021年を締めくくります。

21火 18:30～21:00 南支部 12月交流会

令和4年 いい年を迎えよう ～令和4年 いい年を迎えよう～

■アークホテル福岡天神 福岡市中央区天神3-13-20 ☎092-724-2222

■橋家 文太 氏 落語家

コロナ禍でリアルでの行事が少なく、新会員さんと直接お会いすることができていません。そこで新会員さんとあらためて交流できる明るい例会を企画し、一緒に気持ちよく令和4年を迎えましょう!

21火 18:30～22:00 青年支部・玄海支部 12月合同例会

コロナ禍の苦悩と挑戦 ～共創～

■WITH THE STYLE Fukuoka

福岡市博多区博多駅南1-9-18 ☎092-433-3900

■鳥巢 大介 氏 キャプテンダイニング株式会社 代表取締役 青年支部
『学びの部』『懇親の部』の二部構成で行い、他支部会員と知識を交流し、親睦を深めることを目的とします。『学びの部』では「コロナ禍をチャンスに変える」について、会員企業の具体的な報告を参考に、自社のこの1年間を振り返り、グループ討論を通して、新しい挑戦、企業変革、自社の成長に向けて具体的な学び、気づきを得ることを目的とします。

2021年度 第6回

理事会だより

日時 2021年10月27日(水) 14時30分～17時30分
会場 福岡県中小企業振興センター401号会議室
出席 40名(出席率90.9%) 議長 山田 秀樹(副代表理事)

■研修本部より

- ・1月26日(水)の理事研修会の参加が呼びかけられた。

■会員の動き

●経営革新計画承認企業

2021年9月(県198件/うち同友会会員・企業7件)

・(株)武久 池井 雄樹 氏(福友支部)

<テーマ> 非公開

・(株)蕎麦麺工房高尾 坂井 知 氏(福友支部)

<テーマ> 新商品開発及びショップ併設型ホームページの開設、新しい食べ方提案による小売部門強化

・エイキュウリンクス(株) 永井 雅久 氏(南支部)

<テーマ> 非公開

・(株)エコプラネット 浦 敬樹 氏(福友支部)

<テーマ> 非公開

21火 18:30～21:40 博多支部 望年例会

■ハビオボウル 福岡市博多区千代1-15-30 ☎092-633-2500

ボーリング大会を通して、ブロックの力を結集し、会員の交流を深めましょう。
※参加費:5,000円

21火 18:30～21:00 北九州支部 12月例会

新しい年を前に ～来年を明るく迎えるために～

■リンドマール黒崎 北九州市八幡西区黒崎東神原町2-23 ☎093-642-3659

会員さんと一緒にゲームや食事などで今年最後の忘年例会で盛り上がりましょう。皆さん大歓迎です。できる限りの感染対策を講じて開催いたしますので、皆さん安心してご参加ください。

21火 19:00～21:00 大牟田支部 12月例会

運命は自らまねき 境遇は自らつくる

■大牟田文化会館 大牟田市不知火町2-10-2 ☎0944-55-3131

■土師 正記 氏 株式会社酒商菅原 店長

自社は何を提供する会社なのか?自社の事業を展開する領域、生存領域を考え、経営方針を作成するのに役立てることを目的とします。

お申し込み、お問合せは、e.doyu もしくは、同友会事務局まで
お願いします。お知り合いの方を誘って、是非ご参加ください。

★理事会議事録の詳細はe.doyuの「文書管理」にある「理事会議事録」にて御覧下さい



Miyazaki Natsuko

デジタル社会の中の 手書き文字の温かみ

株式会社コスミット・アイ 宮崎奈津子 (青年支部)



内閣総理大臣賞受賞 賞状



例会チラシ



単発セミナー

私が本格的に筆を持つようになったのは9歳の頃。友人の誘いで習字を始め、周囲からすると遅い始まりでした。高校では芸術科書道専攻コースのある高校に入学し、本格的に書道を始め、部活・授業時間以外に朝の自主練習を続けることで数々の賞を受賞し、日本武道館主催の大会では「内閣総理大臣賞」を受賞することができました。

現在、パソコンやスマートフォンが普及し、手書きする機会は大幅に減少しています。デジタル化も影響し、子どもの握力・筆圧低下も問題視されています。私も普段は、書類やデザイン制作などでパソコンとスマートフォンをフル活用し、特に新型コロナウイルスの影響でリモートワークの普及が加速する中、デジタルは必要不可欠だと私も思います。そのような中でも、たまに手書きで添えられたメッセージをふと見た時、温かい気持ちになりませんか。手書き文字は、活字には表せない温かみ、感情を表すことのできる手段の一つです。私は、デジタルもうまく活用しながら、たまにでも良いので自分の手で字を書くということを忘れないでほしいと考えています。

現在の活動としては、同友会では2泊3日経営指針セミナーに参加したご縁から、社員教育の一貫でペン字講座、また、単発のペン字セミナーも会員さんのお店でさせていただきました。また、書とデジタルの融合という意味で、自分の所属ブロックでの例会チラシも作成。今はコロナの影響で思うような活動は出来ていませんが、Webサイトを開設し、2022年にはセミナーの再開や、教室の運営、非対面型の講座もしていきたいと思っています。また、伝えるだけではなく、自分自身でもその思いを忘れないように書道を継続し、制作活動として、題字、ロゴ、筆文字名刺、経営理念・社訓なども行っています。

太宰府カー合格



同期会ロゴ



商品パッケージロゴ

あなたの記事でこのコーナーを飾りませんか？みなさんの投稿をお待ちしています。

投稿方法 郵送、メールいずれも可。表題に「月刊同友 会員からの投稿」とご記載ください。

送付先 郵送／下記「月刊同友」編集部まで メール／s_asahi@fukuoka.doyu.jp (福岡同友会事務局 旭まで)

一般社団法人 福岡県中小企業家同友会
「月刊 同友」編集部

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町9番15号
福岡県中小企業振興センタービル11階
TEL:092-686-1234 FAX:092-686-1230

北九州地区センター

〒802-0001 北九州市小倉北区浅野1-2-39
クルーズ浅野ビル 808号
TEL:093-551-3111 FAX:093-551-3344

県南地区センター

〒830-0038 久留米市西町1367-1
祥栄ビル2階
TEL:0942-33-3355 FAX:0942-33-3366

<https://www.fukuoka.doyu.jp/>

福岡同友会

検索

アンケートにご協力ください

月刊同友では、皆様からのご意見・ご要望を募集しています。よろしければQRコードからアンケートにお答えください。

回答締切 12月31日(金)

